

主要な検査項目の参考基準範囲

ここに掲載された主要検査項目の参考基準値は、心臓血管研究所付属病院臨床検査室でのもので、成人を対象としています。基準範囲とは健康人集団の 95%の方が含まれる範囲のことをあらわし、その範囲より高ければ H マーク、低ければ L マークが付きます。病気の診断は、検査だけではなく問診・診察などと総合的に判断します。検査結果の解釈・判断において、ご不明な点がございましたら担当医にご相談ください。

生化学検査

検査項目	略称	当院の基準値	検査内容の説明
総蛋白	TP	6.5~8.3 g/dL	血液中に含まれる蛋白質の総量で、主に、アルブミン・免疫グロブリンが含まれます。
アルブミン	Alb	3.8~5.1 g/dL	蛋白質の中で最も多く含まれます。肝臓で合成され、栄養状態や肝臓・腎臓の機能がわかります。
総ビリルビン	T-Bil	0.4~1.5 mg/dL	ビリルビンは赤血球中のヘモグロビンの代謝産物です。高値となると黄疸として現れます。
直接ビリルビン	D-Bil	0.0~0.2 mg/dL	
尿素窒素	BUN	8~20 mg/dL	肝臓で合成され、腎臓より尿中に排泄されます。腎臓機能の指標として広く利用され、腎不全、熱傷、消化管出血などで上昇します。
クレアチニン	CRE	M 0.5~1.1 mg/dL F 0.4~0.8 mg/dL	筋肉で生成される物質で、腎臓より尿中に排泄されます。腎臓機能の指標です。
推算糸球体濾過率	eGFR	60 mL/min 以上	腎臓が 1 分間にどれだけの血液を濾過して尿を作れるかを示します。腎臓機能が悪くなると低下します。
尿酸	UA	2.1~7.0 mg/dL	核酸(プリン体)の代謝産物です。高値では痛風の危険因子となります。腎臓機能の低下でも増加します。
ナトリウム	Na	136~148 mEq/L	血液中に多く含まれる電解質で、体内の水・浸透圧や酸塩基平衡の調整に重要な役割をしています。カリウムは神経や筋肉の興奮性の維持や心筋の活動に重要な作用を持っています。
カリウム	K	3.5~5.0 mEq/L	
クロール	Cl	96~111 mEq/L	

検査項目	略称	当院の基準値	検査内容の説明
カルシウム	Ca	4.3～5.1 mEq/L	骨代謝だけでなく筋収縮、血液凝固にも必須な物質です。
血清鉄	Fe	M 50～200 μ g/dL F 40～180 μ g/dL	鉄の代謝異常の指標です。 貧血や出血で減少します。
不飽和鉄結合能	UIBC	M 150～385 μ g/dL F 140～330 μ g/dL	貧血や鉄代謝異常の鑑別を行います。
フェリチン	Ferritin	M 9～275 ng/mL F 4～87 ng/mL	鉄貯蔵タンパクで、鉄貯蔵量を反映します。
中性脂肪	TG	30～160 mg/dL	血液中の主要な脂質成分で、エネルギー源として使われます。 高値では動脈硬化症の危険因子となります。食事の影響を大きく受け、食後に上昇します。
総コレステロール	T-Cho	120～220 mg/dL	血液中のコレステロールの総量です。細胞膜の構成やホルモン生成に不可欠ですが、高値では動脈硬化症の危険因子となります。
LDL-コレステロール	LDL-C	65～139 mg/dL	悪玉コレステロールとも言われ、高値では動脈硬化症の危険因子となります。
HDL-コレステロール	HDL-C	M 35 mg/dL 以上 F 40 mg/dL 以上	善玉コレステロールとも言われ、動脈硬化を防ぐ作用のあるコレステロールです。 低値では動脈硬化症の危険因子となります。
AST (GOT)	AST	8～40 U/L	AST は肝臓、心臓、筋肉、赤血球などに含まれ、ALT は主に肝臓に含まれている酵素です。 これらの障害により上昇します。
ALT (GPT)	ALT	5～41 U/L	
乳酸脱水素酵素	LD (IFCC)	124～222 U/L	身体のほとんどの組織・臓器に分布する酵素です。主に肝疾患・心疾患や筋肉の損傷を受けると高値を示します。
クレアチンキナーゼ	CK	M 59～248 U/L F 41～153 U/L	骨格筋、心筋、平滑筋、脳などに多く含まれている酵素です。激しい運動や筋肉注射などでも上昇が見られますが、主に筋疾患、心筋梗塞などで高値を示します。
アルカリホスファターゼ	ALP (IFCC)	38～113 U/L	肝臓、胆道、骨、胎盤、小腸にある酵素で、これらの障害により上昇します。成長期では骨の新生が盛んなため高値を示します。血液型がB型やO型の人では食後に高値を示すことがあります。

検査項目	略称	当院の基準値	検査内容の説明
γ-グルタミルトラン スベプチダーゼ	γ-GTP	M 75 U/L 以下 F 30 U/L 以下	胆汁の流れ(肝～胆道～腸)に障害が生じると増加します。また、アルコールの摂取量に敏感に反応します。
コリンエステラーゼ	ChE	M 240～486 U/L F 201～421 U/L	肝臓での蛋白合成機能をみる検査です。
アミラーゼ	AMY	44～132 IU/L	膵臓や唾液腺より分泌される消化酵素です。 これらの臓器の障害をみる検査です。
C 反応性蛋白	CRP	0.3 mg/dL 以下	炎症マーカーのひとつです。感染や組織の障害が生じると増加します。

糖代謝検査

検査項目	略称	参考基準値	検査内容の説明
血糖	GLU	70～109 mg/dL	血液中のブドウ糖(グルコース)の値を示します。 食事の影響を大きく受け、食後に上昇します。
ヘモグロビン A1c	HbA1c (NGSP)	4.6～6.2 %	採血時よりさかのぼって1～2ヶ月間の平均血糖値を反映します。 糖尿病の診断と経過観察に必要な検査です。

血液凝固検査

検査項目	略称名	参考基準値	検査内容の説明
白血球数	WBC	33～86 x10 ² /μL	血液の細胞成分のひとつで白血球の数を表します。白血球は病原微生物などから身体を防御するための免疫機構の主役となる細胞で、身体の状態により変動が見られることがあります。
赤血球数	RBC	M 435～555 x10 ⁴ /μL F 386～492 x10 ⁴ /μL	血液の細胞成分のひとつで赤血球の数を表します。ヘモグロビン(血色素)は赤血球中の主成分で、肺から体の隅々の細胞に酸素を運び、二酸化炭素を受け取る働きをします。ヘマトクリットは血液中に占める赤血球の割合を%で表した数値です。いずれの項目も貧血の程度の指標となります。
ヘモグロビン	Hb	M 13.7～16.8 g/dL F 11.6～14.8 g/dL	
ヘマトクリット	Hct	M 40.7～50.1 % F 35.1～44.4 %	

検査項目	略称名	参考基準値	検査内容の説明
血小板数	Plt	15.8～34.8 $\times 10^4 / \mu\text{L}$	血液の細胞成分のひとつで血小板の数を表します。血小板は出血したときに血を固め、止める働きをします。
平均赤血球容積	MCV	83.6～98.2 %	各赤血球の大きさの平均値で、赤血球の大小がわかります。
平均赤血球ヘモグロビン量	MCH	27.5～33.2 %	各赤血球に含まれているヘモグロビンの平均値を表します。
平均赤血球ヘモグロビン濃度	MCHC	31.7～35.3 %	赤血球容積に対するヘモグロビン量を表します。
プロトロンビン時間 PT-s PT-% PT-INR	PT		血液が固まるまでの過程の異常を調べる検査です。血液を固め止血させる物質は肝臓で作られるため、肝臓の機能を調べる時にも検査します。また、ワルファリンの治療効果の判定に重要な検査です。
活性化部分トロンボプラスチン時間	APTT	28～38 sec	血液の凝固異常を調べる検査です。抗凝固剤の治療効果の判定や肝臓の機能を調べる時に検査します。
フィブリノーゲン	FIB	200～400 mg/dL	止血や血栓形成に必要な蛋白質です。
フィブリン分解産物 D ダイマー	D ダイマー	1 $\mu\text{g}/\text{mL}$ 以下	血管の中で血液が固まり血栓が出来た場合、それを溶かそうとする作用が働きます。その時に作られた物質を測定する検査です。各種血栓症の診断や血栓溶解療法などの効果判定に重要な検査です。
フィブリン・フィブリノーゲン分解産物	FDP	5 $\mu\text{g}/\text{mL}$ 以下	
赤血球沈降速度	ESR (1 時間)	M 0～10 mm/hr	炎症マーカーです。貧血のときも上昇します。
		F 0～15 mm/hr	

免疫血清検査

検査項目	略称	参考基準値	検査内容の説明
HBs 抗原	HBsAg	(-)	B 型肝炎の検査です。
HCV 抗体	HCVAb	(-)	C 型肝炎の検査です。
ヒト免疫不全ウイルス抗原抗体	HIV Ag/Ab	(-)	エイズの検査です。
梅毒トレポネーマ抗体	TPAb	(-)	梅毒の検査です。
高感度心筋トロポニン I	hsTnI		心臓の筋繊維に含まれる蛋白質です。急性心筋梗塞発症時に上昇します。
ヒト脳性ナトリウム利尿ポリペプチド	BNP	20 pg/mL 以下	心臓に負担がかかると心臓から分泌されるホルモンです。慢性心不全で高値を示し、心疾患の心機能評価や予後の推定に有用な検査です。

尿一般検査

検査項目	略称	参考基準値	検査内容の説明
尿蛋白	PRO	(-)	尿中の蛋白を調べる検査です。腎疾患などで病的に検出される場合のほか、妊娠や運動後などで一過性に検出されることもあります。
尿糖	GLU	(-)	尿中のブドウ糖を調べる検査です。糖尿病や腎疾患などで検出されます。食後すぐでは健康な人も陽性になることがあります。
ウロビリノーゲン	URO	(±)	健康な人でも、少量排泄しています。黄疸と関連する検査ですが、激しい運動の直後や疲労、便秘時でも陽性になることがあります。
ビリルビン	BIL	(-)	尿中のビリルビンを調べる検査です。肝機能障害や胆道閉塞などで陽性となります。
ケトン体	KET	(-)	ケトン体は脂肪がエネルギー源として使われる際にできる成分です。脂肪代謝が亢進すると尿中に検出されます。糖尿病、飢餓、嘔吐、下痢、妊娠悪阻などで陽性となります。
尿潜血	BLD	(-)	尿に血液が混ざっているかの検査です。腎臓、尿路、膀胱に炎症や損傷があると陽性となります。
亜硝酸塩	NIT	(-)	尿中に細菌が多く存在しているかどうか調べる検査です。

検査項目	略称	参考基準値	検査内容の説明
白血球エステラーゼ	LEU	(-)	尿中の白血球を調べ、腎臓から尿道までの尿の通過経路の炎症の有無をみる検査です。
尿比重	SG	1.005~1.030	尿の濃さの指標となります。腎疾患や水分摂取、発汗、運動などで変動します。
尿 PH		4.5~7.5	尿の酸性・アルカリ性の程度を調べる検査です。食事や運動によって幅広い変動がみられます。
尿沈渣	SEDI		尿中の有形成分を顕微鏡で調べる検査です。

糞便検査

検査項目	略称	参考基準値	検査内容の説明
便中ヒトヘモグロビン	ヘン HGB	(-)	便に血液が混じっているかを調べる検査です。